



恵水通信

平成28年
創刊号
10月31日

● 『恵水通信』は、「恵水」の旬の情報をお届けします。

茨城県オリジナル品種「恵水」は、本県産なし全体の生産・販売を活性化する牽引役として期待されています。「恵水」の販売はこれまで試験的に行われてきましたが、平成28年は県梨組合連合会（以下、県梨連）が主体となり、関係機関と連携して市場出荷に取組みました。

創刊号では、今年の生産・販売に関する様子をお伝えします。

● 出荷規格を守ったもののみ専用箱で出荷

本年の市場出荷は、苗木販売が開始されてから3年目ということもあり、出荷数量が約1.5tと少ないことから、出荷する卸売業者を3社に限定し、県内8組織（24名）から出荷日を統一して行いました。

出荷品は、規格を厳守し光センサーで選果して糖度保証された「特選恵水」と通常選果の「恵水」です（下表）。また、果実品質が安定し食味に優れる大玉のみを出荷し、400g未満の果実は出荷しないこととしました。これらの厳しい出荷規格を守ったものについては、統一デザインの「恵水」専用出荷箱を使用しています。

出荷前の8月下旬には、適期収穫のための「恵水」専用カラーチャートによる現地目合わせ、9月上旬には「あきづき」「恵水」統一目揃え会を開催して、適熟収穫での美味しいなしの出荷を確認し合いました。市場出荷は、9月1日～19日まで合わせて8日行われ、5kg箱で約300箱が出荷されました。



「恵水」出荷箱と荷姿

表 「恵水」出荷規格

商品名	規格
特選恵水	10玉（5L，500g/果）以上，糖度13度以上，秀品のみ
恵水	12玉（4L，400g/果）以上



収穫適期の現地目合わせ



「あきづき」「恵水」の統一目揃え会

● 責任産地、茨城への大きな期待

初荷となった9月2日には、大田市場において県梨連とJAグループ茨城なし流通部会の共催により、市場関係者、買受人向けに「恵水」の試食宣伝を盛大に開催しました。試食に訪れた多くの方からは、「甘くシャリ感もある」「とても美味しい」と好評をいただきました。

また、市場関係者に「恵水」を広く知っていただくため、東京青果（株）の取り計らいにより競売が行われ、初荷相場もあり秀8玉（5kg）が高値 4000 円で落札されました。販売期間中の平均取引単価は約 500 円/kgで、なしの責任産地である茨城への大きな期待が込められていると感じました。

果実の販売は首都圏の果実専門店や青果店、県内の青果店や農産物直売所で行われました。一部の店舗では試食宣伝を行うなどPR活動の効果もあり売れゆきも好調でした。



大田市場で「恵水」の試食宣伝



「恵水」の初競り



東京都内の百貨店で販売

● 信頼あるブランドを目指す

初出荷では今後改善すべき課題も見えてきました。市場関係者からは、出荷量の増加と安定した出荷体制を望む声がありました。しっかりと対応していかなければなりません。

そして、どの「恵水」を食べても「美味しい！」と言っただけの信頼のブランドとなるように、生産者と関係者が一体となって生産・出荷・販売に取り組む必要があります。

次年度も県梨連は、統一感をもって「恵水」の有利販売を目指しますので、市場出荷へのご理解とご協力をお願いします。

● 「恵水」苗木の入手方法

「恵水」の苗木生産は、茨城県果樹苗木協議会（以下 苗木協議会）が県梨連から委託され、需要数に応じて生産する体制となっています。「恵水」の苗木を注文する場合は、12月～3月に各なし部会や農協を通して、県農林振興公社が県全体の需要本数を取りまとめた上で、苗木協議会と梨連の間で生産委託契約を結びます（受注生産）。

苗木協議会では、契約本数に従い、春に台木へ接ぎ木を行い、当年の12月以降に1年生苗の引き渡しとなります。委託契約に基づく受注生産となるため、4月以降の追加注文や大幅なキャンセルは、対応できない場合もありますので、「恵水」への改植・新植に際しては、年次計画を立てて取り組んで下さい。

「恵水」苗木の注文については、所属する各なし部会や農協、管轄する普及センター、もしくは県農林振興公社園芸振興部（TEL029-222-8511）にご相談ください。